

# 長野県建築設計監理協会

長野県建築設計監理協会事務局＝  
〒380 長野市南長野妻木426-1 長野県建築士会館

1984/NO.5

昭和59年1月28日発行

No. 5

設計者の信条 宮本 忠長  
長野大通り開通に思う 夏目幸一郎

## 設計者の信条

本会会長 宮本忠長



いまほど地方に生きる建築家の姿勢が問われている時は無い。地方は都会と異なって、すべてが狭い。そこで常住する人々の生活が手に取る様に判ってしまう。その様ななかで、お互いのプライバシーは尊重しつつ、相互に大切にして、公・私の問題を唱え、社会秩序が保たれている。

私達の日常生活は、かようにして、自ずと硝子張りである。この事に気付かぬ人もいるし、逆に他人の行為言動は見通しているのに、自分自身のことは意外と盲である。

設計監理を専業に行っている建築家こそ、他の職業人に比べて、職業の成果による行為が目立つ。何故なら、公共建築の設計監理業務を通じて、公共性の強い仕事に、絶えず直面し、関与しているからだ。

例えば、建築家は、建築の業務を通じて、常に各界のリーダーの方と対話が出来関係にある。公共建築の設計のみならず、民間建築に於ても、設計監理者の職能は、建築主との間に、建築が完成後もより一層の親密な問柄を持つことが出来る。何も建築家として施主に阿（おもね）るので無しに、自己の仕事に、終生の責を負う意味が強く存在している。

かようにして、私達の職務は、一口に言って目立つ。良かれ悪しかれ、世間の前に晒されてしまう。因果と言うより、光栄である。建築は、社会に対して言葉を投げかけている。通りすがりの人々に、常に、設計者

の思想や造形力を告げているのだ。例えば、或る建築は「私を造ってくれた建築家は、隣り周囲に対し、全く気配りはしてくれませんでした」と。また或る建築は、「環境を生かしてくれて、然も、優れた造形の格調に、快適な表情を自慢して、優しく微笑んでいます」と。建築空間は、全く正直である。そして、いちいち、作者が注釈を加えることの出来ないところに厳然と坐っているのだ。狭い地域社会では、あの建築は誰の設計作品か、すぐ判ってしまう。設計者自身の分身が建築作品である。つまり、建築家自身が、街角で、野山で、直立不動の姿勢で立っているのだ。良い仕事をした建築家は、役者冥利に尽きるし、逆に、失敗作を残した建築家は、懺悔痛恨の淵瀬を行きつ戻りつである。

私達は、いまこそ、自己の立場を再認識し、優れた建築を創造し、都市（まち）づくりに参加しなければならない。

まず、その為には、自律研鑽である。そして、建築家として、職能人としての身の周りを清潔にすること、建築主、施工者との関係を正常に保つことが大前提となろう。公共建築で、設計料入札が横行している県下では、その非を官側に訴え、強く主張しよう。また、当方の非も指摘してもらおう。私達も襟を正さなくてはならない。何故なら、私達は官・民からの依頼を受けて、建築作品を創るのだ。完成した建築は、絶えず都市に、市民社会に、いろいろな言葉を投げかける。謂わば、建築家は、社会に対し、大きな責任を持っているからだ。

我が長野設監協会ニュースが、本年、復刊する喜びを会員一同と味わうことの出来る感動に、改めて、自己の内面を磨きたいと思う。また、復刊に当り、長野県デザイン協会長・夏目幸一郎先生から特別寄稿を賜りました事に対して、畏敬の念をこめて、謝意を表したいと思う。

(1984. 1.15)

# 長野大通り開通に思う

県デザイン協会会長 夏目 幸一郎



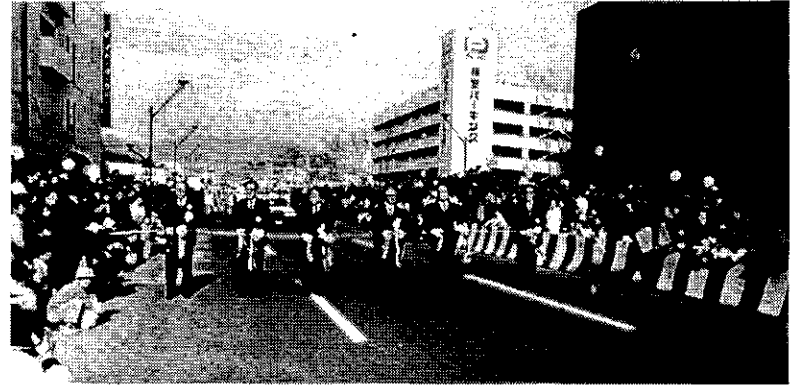
建築設計監理協会の会報に掲載したいから原稿が欲しいというご依頼、実は大変戸惑いました。私のような場違いな者が専門家の機関紙に類したところへ突拍子もなく紛れ込んで、とんだお笑いものか目障りになるのが関の山になりそうで、一時は辞退しようかと思いましたが「えい、ままよ」とばかりお引き受けしてしまいました。一読お笑いのほどを。

さて、昨秋、全市民が永い間待望していた長野大通りが御存知のように全面開通いたしました。今まで県都長野市といっても道路はいずれも貧弱で、とても近代的で堂々たる、ましてスマートとはお世辞にも言えるものは無かったのですが、新装成った長野大通りはさすがに立派で誇るに足るものと言えます。

地下を通る地下鉄、そして街路に整然と植栽された中央分離帯。数車線の車道、広い歩道、モダンな街灯、電話、地下への入口等、それらはいずれも最も新しい美しさを持ったものと言えます。

私達市民はこの新しい街並みを新時代の長野市を表現するキャンパスとして、時代にふさわしく、そして長野市を美しい街にデザインして頂くためには今こそ最も良い時期と考え、建築設計の業に携わる諸兄にお考えいただきたいと願ひまして一文を草した次第です。

立派な道路は出来たけれど、この通りの街並みを作る建物が良くなければ街は美しくならないという自明の理を、ここで実際に一軒一軒の家が美との調和を考慮して頂けたら、どんなにこの大通りが快適な通りにな



昨年11月20日に行われた長野大通り開通式（左側が夏目氏）

るか、そしてこのことが長野に住む人の、暮す人の心に好ましい情緒と観念と感覚を育てるか測り知れないものがあることを強調したいと思います。

せっかく新しく生まれたこの大通りに、建築される際のデザインには施主の要望もありましょうが、永い目で見るとの施主の為でもありましょうから、少なくとも大通りに建築されるからには、安定感とゆとりをもった形と線、落ち着いた無彩色に近い色彩、近隣の調和等々を充分に考慮した設計を協同歩調で実施して頂ければと、御期待したいものであります。もちろんこのような事が完全に実施出来るとは思っておりませんが、しかしながら、こうした事が通りを心から愛する人が在るならば、そしてまた皆さんの中にとえ幾人かでも在るならば、少なくともそれは消すことの出来ない火となって燃え上がる可能性はあると思うのです。

新年の初夢とおぼし召して、ただお読み流しになさらず、素人の考えとしていくらかでも同感の点がありましたら、頭の片隅にお入れ下されば幸甚です。

## 重慶建築工程学院を訪ねて

建築家 信州大学講師 宮本忠長

昨年9月、早稲田大学建築学科と重慶建築工程学院、並びに、浙江省杭州市にある浙江大学との間に交換講座が持たれることになり、早大講師団の一員として、私も、訪中する機会に恵まれた。

両大学では温かい歓迎を受け、私達一行が抱いていた、未知への緊張感もいつかほぐれ、親しく和やかな雰囲気、開講会場を包んだ。

「早大代表団を心から熱烈に歓迎する。このたびの来訪は、我が国の建築教育レベルの向上、日中親善に大きく貢献し、日中友好発展に大きく寄与するものと信ずる。今回の交流のきっかけを作って頂いた、早大教授・尾島氏の功績に感謝したい。又、日本は、中国と長い歴史を持ち、第一の隣国である。長い交流を願う。私達は、周恩来の言葉を思い出す。『長く末代までも交流できる兄弟として』諸先生方の御健勝を祈る。」——開講に際して、院長からこの様な温かい、真心のこもった言葉を頂き私達の講義が始まった。

団長の池原教授を筆頭に、時間割りに従い、両大学でおのおの2日間ずつ、みっちり交流する。

私の担当は、「風土と建築」をテーマに、長野市立博物館をはじめ、数点の作品をスライドで紹介しつつ、約2時間の講義である。講義対象は、教授、大学院生、一部学生の300名程の大教室で、終日、熱気のもった、充実した時を持つことが出来て、大変有意義であった。

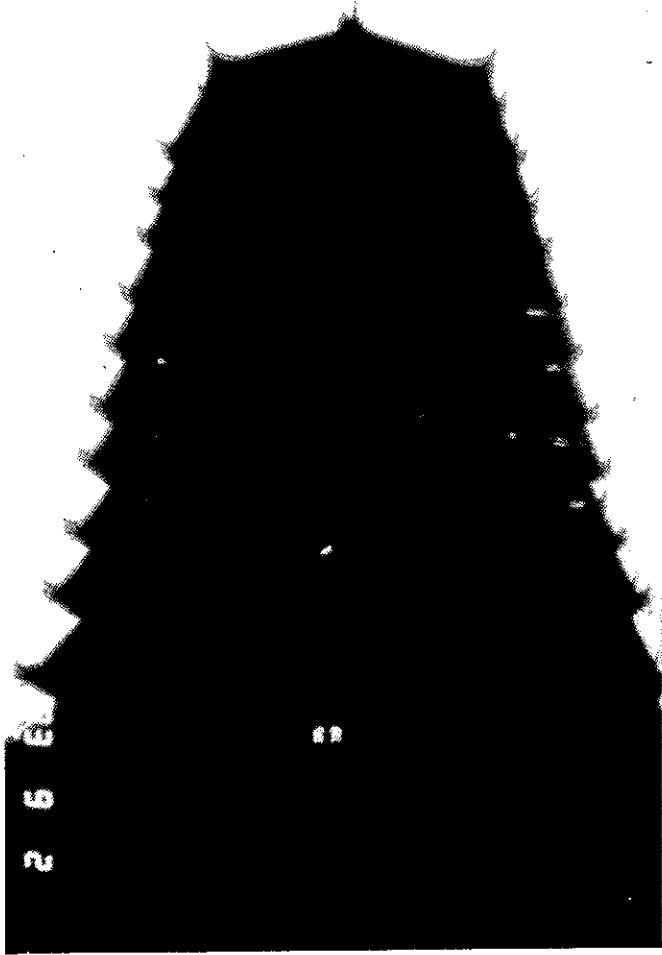
私達は又、講義の無い時はキャンパスを見学した。中国の学生は、実に勤勉である。とにかく大変な入試難で、日本と比べても想像を絶する。浪人など当り前で、3浪、4浪が多勢いる。彼等は、大学の成績いかんで就職先が決るため、学生間の競争は熾烈であると言う。全寮制で教育に傾ける情熱は凄い。ちなみに、今回訪中の重慶建築工程学院は、1952年創設された。中国の西南地区の9大学の建築学科が集まって重慶大学から独立、重慶建築工程学院としてスタートした、建築系、土木系の大学である。重慶市の郊外に広大な敷地を持ち、学科数も多く、建築の総合大学である。教授陣も豊富で充実した内容を誇っている。緑に包まれたキャンパスは緩やかで広大な傾斜地に建ち、地場産の屋根瓦や煉瓦を使った建物が静かにたたずむ。

私達は、短い時間をかなり有効に過した。先生方や学生達と交換も出来、設計図も見せて頂いた。1年生の設計課題から順次4年生の卒業制作まで、細やかな内容を知る事が出来た。表現能力の優れた人やテクニシャンの人もいて、作品は若々しく、みずみずしい。——が、日本と比べると傾向が大分異なる。先生方の話では、「文革の失敗から立直る今日の中国を反映して、工学、技術のハードな面をより充実すべく、国家建設に役立てる教師を育成するのが急務である」ということだ。

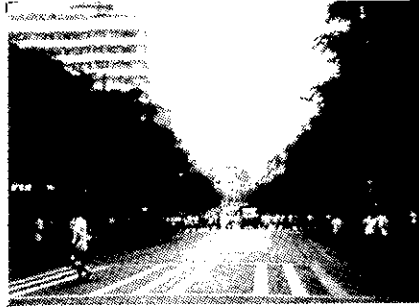
また、日本と異なり、極端に情報不足の現状の中で、懸命に学ぶ彼等は、極く近い将来に明るい希望の光を投げかけている。

いろいろ教えられることの多い訪中であつたが、今、過ぎし日を顧みて、重慶建築工程学院、また、浙江大学の諸先生に心から御礼を申し上げます。

(1984.1)

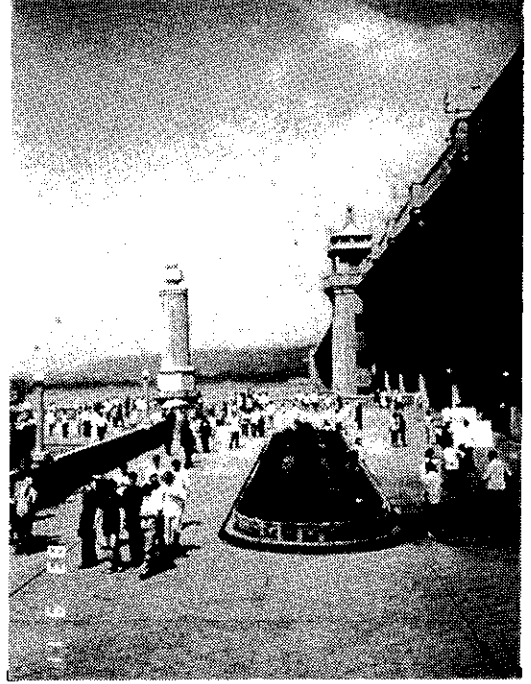


▲杭州市六和塔

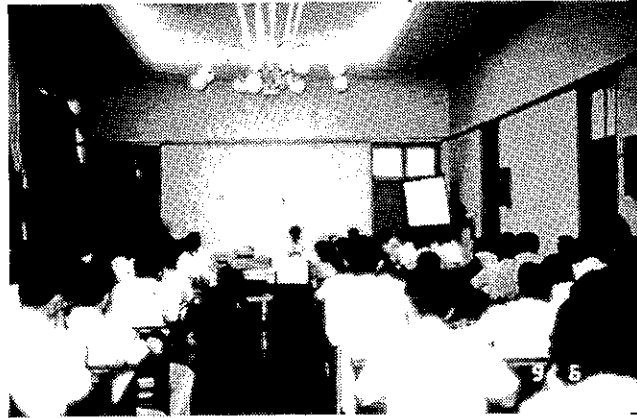


▲重慶市の中央通り

▼杭州市浙江大学キャンパスと著者



▲長江大橋



◀重慶市重慶建築工程院にて講義

# 日本式経営の妙

賛助会員部会会長 笠井邦夫



日本の存在が国際社会で、特に経済面でクローズアップされて来たのはオイルショック以後である。東京オリンピック以後の高度成長期は特に日本だけが目立つというものではなかった。ところが、石油ショック以降世界が低成長経済に陥った中で、活力をもった経済を維持してきたのは日本であった。故に国際社会の表舞台に認識され出して未だ10年足らずである。

戦後、いや明治維新以後それこそ欧米の模倣を続けてきたといえる日本が、ここ数年は輸出が増大するだけでなく、海外へ工場進出し、又欧米から「日本式経営」の視察団来訪が忙しい程である。アメリカ式経営の根本には大量生産、大量販売によるコストダウンが基軸になっていた。このマスプロダクションの出産体制の中では職務がはっきり分担され、スタッフが戦略を練り、現場のラインはただ契約に基いた時間を働き、ノルマを達成すれば良く、それ以上に会社に対する帰属心、忠誠心は無い。

自動車産業を例にとれば、業務区分は数百人以上になり、よほどの事がなければ他人の職種には無関心であり、より多くの仕事に興味を持つて会社の為に働こうという気は無い。ところが、ここにマスプロダクションを不可能にする石油ショックが起き、これは、生産上の問題の他に多くの既存の価値観を変えた。ここで低成長下でも活力を失わない日本式経営の妙が注目を浴びるのである。退社後、自腹を切って飲む酒は、会社の同僚とであり、話題は会社・仕事の事であることは欧米人には分

りかねるらしい。又、労働組合は企業内組合であり、官公労を除いて労働者は自分の企業を守るという意識が高い。この辺りの事が、終身雇用、年功序列による人間性重視の日本式経営の妙である。週末のプライベートなレジャータイムを大切にす欧米人は、金曜日午後のアポイントメントさえ嫌がるそうである。又、自動車工場内でもくわえ煙草の労働者のいやいやながら仕事をしている姿が、よくアメリカの工場視察記等に紹介されている。彼らは、給料は仕事の成果配分とは受けとらず、時間を切り売りした代金としてとっている。

以上の例は、アメリカ式経営が人間の労働意欲を疎外する何かを持っており、それが今までは経済の成長という中で顕在化しなかっただけなのである。アメリカへ進出した日本の自動車メーカーの派遣員が「アメリカ人は働かないという先入観を持っていたが、実際は全然違った。決められた事はキチンとやるし、責任感も強い」と語った。一方の労働者は「日本式経営に満足している。アメリカ式経営に比べ、はるかに人間として扱われている」と、語ったと言う。又、ある労働者は「アメリカ組合と経営の敵対関係が、アメリカ経済を揺がしたのだ。ここには、そのかわり、信頼の絆がある。組合など必要が無い」と語った。

この社長はアメリカ人だが、作業服を着、社員食堂で従業員とジョークをとばしながらハンバーガーを食べる。従業員の教育・訓練は、日本的に十分行うという。

従業員を、仕事をする機械としてとらえるのではなく1人の人間としてとらえ、会社の実情・基本理念を理解させ、それを末端の責任者まで行き届かせること、さらに、相互に人間として理解し合うのが企業経営のポイントである事は、洋の東西を問わない。

# 町づくりと建築家の責務 斉藤英彦



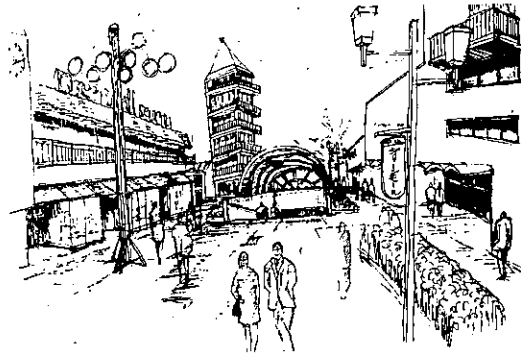
佐久市駒場公園・美術館と図書館

理想的な都市再開発、夢のようなニュータウン建設を考える時代を乗り越えて、今我々が住んでいる地方都市の楽しい生活を復活させるには——という質問に対して、非常に具体的な2、3の解答を与え、建築と都市空間の関係について考えてみたい。

- ①「最近の町づくり」への社会的ムード
- ②個々の建築での「町づくり」への参加
- ③住区・街区での住民自らの都市空間づくり
- ④都市計画スケールでの住みやすさ
- ⑤「統一ある市民生活」を支える官、民、技術集団の協力

以上の5つの問題点に沿って話を進めていこう。

まず、社会的に市街地が行き止まりの観をみせている中で、再開発が必要に迫られている。再開発事業では、商店街における「買物広場」「車と人との分離」、郊外住区における「共用中庭空間」「共用駐車場」「遊び場」などで、自然を再び手に入れる努力が始められている。



佐久市中込・グリーンモール買物広場

実践的な建築物の建設という作業の中で、市街地・住宅地区その他の建物を創り出す時に、隣接する既存の建物とのバランス（協調）はもちろんのこと、道路との関係においても、アーケードやピロティ、建物の高さ、看板、歩道舗石をどうするか……など、すべてにおいて建築家の「図づくり」への積極的な参加を歓迎したい。

姿かたちの解決策も重要な課題だが、「町づくり」とは、市民全員が住民の意識として解決を求め、努力する住民中心の「都市計画」だと思う。

北海道旭川や仙台一番町、そして横浜「伊勢崎モール」などの商店街の買物プロムナードは、何年もの準備期間とディスカッションの積み重ねにより、すばらしい都市空間が誕生したものであり、試行錯誤の繰り返しの中から次へのステップが出てくるわけである。

「ボーンセルフ」とはオランダ語で「生活の庭」という意味だが、実体は街路であり、歩行者と自転

車、そして徐行する自動車が快適に安全に共存することができる生活空間である。このような「コミュニティ道路」が全国37以上の都市で、建設省の補助事業として進行中である。車路屈折、プラントボックス、ストリートファニチャーにより、ドライバーがそこに入るやいなや、そこでは歩行者や子供たちが主人公であり、車は闯入者である事を知るように設計されている。今までの「車をコミュニティからはじきだす」とは違い、車と住空間の協調を改めて認識することで、車社会の利便性を活性化している。商店街でも、高層化されたパーキングビルという最小面積で購買人口を積極的に拡大している。

CIAM活動の中心テーマである「アテネ憲章」で図示された「住居―労働―余暇の三つとそれを結ぶ交通機関」という考え方は現代でも通用しており、商店街・官庁・工場等と住居群とのつながり、レクリエーションや広場の問題、駐車場と通過交通の処理、廃棄物の合理的解決や食料品の供給という流通経済を含めた「都市計画」は、行政と住民と建築家を中心とした頭脳集団の働きが鍵をにぎっている。

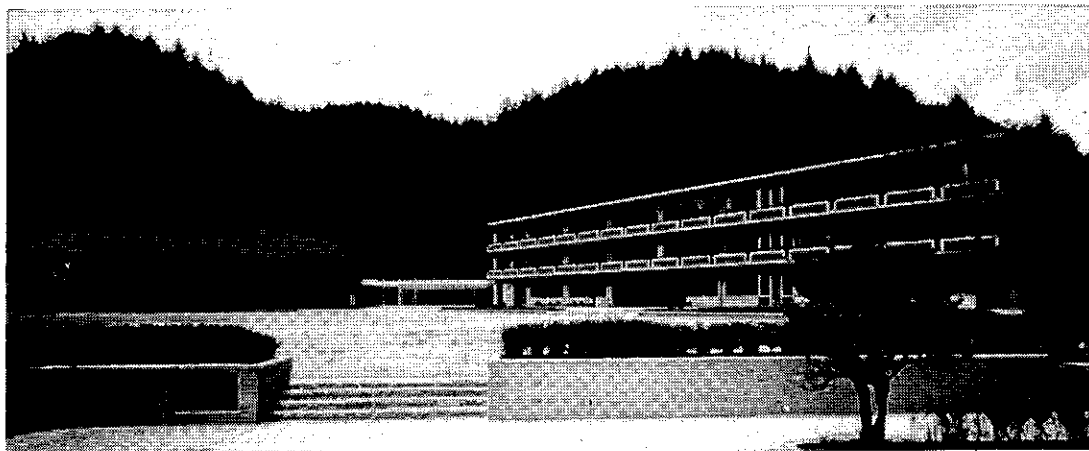
いろいろな街での成功例をみてきたが、そこにはすべて、主導的立場にある自治体の責任者にすばらしい人がいて、さらに地元の当事者に広い視野の持ち主が、技術者集団にはすばらしい建築家がたくさんいるものである。彼らに1、2年間みっちり研究してもらえば、必ず「明るい都市生活」をエンジョイできる明日がやってくることは、多くの例が示してくれている。

(さいとう・ひでひこ/エフ・ハイツ建築設計事務所)

# 南牧村立南牧北小学校

(南佐久郡南牧村)

設計監理／宮本忠長建築設計事務所 構造／RC造  
体育館棟SRC造 敷地面積／28,543㎡ 建築面積  
1,891㎡ 延床面積／3,339㎡ 階数／地上3階  
軒高／11m 最高／14m 体育館棟軒高／8m  
工期／1981年6月～1983年3月



南牧北小学校は国鉄小海線海ノ口駅のすぐそば、標高1038mの所に位置し、北に山を背負った温暖な地形を利用している。

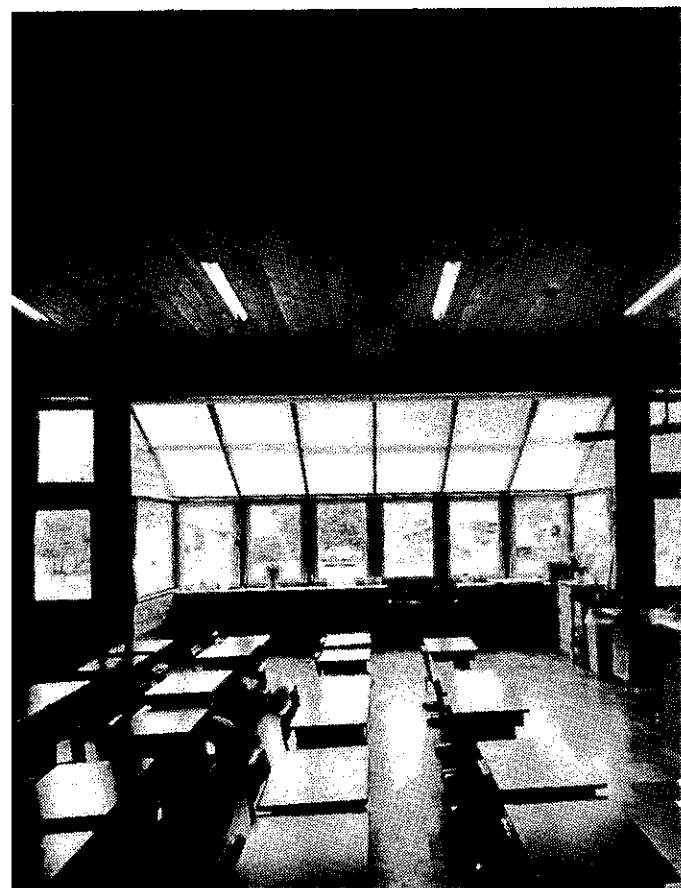
南牧北小学校の計画の根底に流れている考え方は、“子供たちが使う、主役は子供たち、彼らに思う存分親しんで大切にしてもらいたい。卒業しても同窓会の会場になったりして、子供たちが寄りついてくれる小学校、年輪とともに使い込まれる程に良さが出てくる小学校。師友の温く厚い尊厳と愛情のこもった雰囲気の小学校。即ち子供たちが自ら磨きあげ得る小学校”というのが計画のテーマであった。

鉄筋コンクリート造3階建の校舎と体育館の2棟。渡り廊下は陽溜りの採暖ドーム廊下である。例年1月、2月は真冬日、秋から春先まで寒い日が続く。鉄筋コンクリート造の冷たさを少しでも温かくする試みで、外装に明るい茶褐色のレンガタイルを打ち込んで模様状にした。屋根は耐候性鋼板の片流れ葺

きで鉄筋コンクリート造の床板の上に載せ、耐寒、防雪、耐凍を考慮した。内装は、子供たちが誰でも身近にあって分かる素材の構成、即ち信州唐松材を主体に木質系で構成した。教室棟は南西向き、太陽に背を向けることなく配慮し、冬期の室内気候条件を良くするように図った。

寒冷地での素材選び、ディテールなど、メンテナンスがかからず、変質変色のしない建築空間の実像を現出するように努めた。内装は柱・梁型は打放コンクリート仕上であるが、壁、天井、建具類は信州唐松縁甲板貼である。床はナラフローリングブロック貼り、階段の段板はナラ集成材を使い、かつての木造校舎と同じ寸法、同じディテールである。階段の手摺笠木も集成材、手触りの冷たいものは避けた。また、前述の信州唐松縁甲板貼りとした壁・天井も傷んだらそこだけ部分補修ができるように納めた。

◀ワークスペースを持つ低学年用普通教室





# 長野市立博物館

設計監理／宮本忠長建築設計事務所 構造／RC造  
一部SRC造 敷地面積／95,000㎡ 建築面積／  
5,206㎡ 延床面積／7,144㎡ 階数／地下1階地上  
4階 工期／1980年4月～1981年9月

長野市立博物館は、指名競技設計方式で採用され、実現したものである。

過去20年間、長野県下で私共が関与した唯一の正規ルールに従ったコンペティションであった。即ち、設計条件、期間、審査員諸先生、審査規準、参加報酬など全てにわたって立派なものであった。

私共は、コンペティションの参加指名を受けた時、正直に言って驚いた。それは熱い刺激へと変わるのである。長野周辺のみを仕事の場としている私共にとって、中央の設計者と同じ土俵に立ち一緒に勝負できる「幸せ」に身体が震える。また一方、長野市という自治体が、斯様な正規の立派な競技設計方式を採択、実施したこと等々。(近時、コンペとは名ばかりで、実に発注者の身勝手としか思われぬような審査で、設計者を選定している自治体が多い。)この様な背景が、日が経つにつれ、私の設計姿勢に強く焼き付くのであった。

従って、この仕事は、かなり力が入った。コンペティションから始まり、基本設計、実施設計、工事監理を通じて文字通り全力投球である。私はじめスタッフは正に命がけであったと思う。

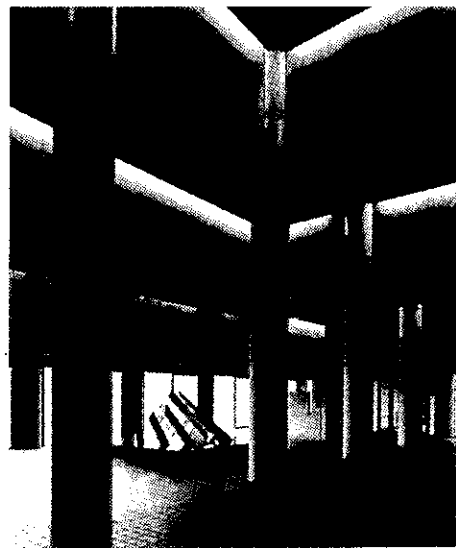
もとより、設計それ自体の纏め方は、私と私自身の心の内面との格闘である。スタッフとの連携、施主



側である自治体への理解、認識などの要請、施工者側への技術的協調等々、非常に心労の多い日々であった。技術的な問題への認識、また、対人間関係の立場の差異からくるむずかしさ等々、一つの建築を創り上げることの苦しみを思う存分味わった実感である。

しかし、絶えず私を支え、私共を勇気づけて頂いた多勢の関係各位の人間愛に触れる事が出来て、感謝に絶えない。私にとって一つの仕事が終わった。またこの作品で、昭和56年度日本建築学会賞を受けた感動は、今、新しい重責となって、私の心の内面を包むようである。

(宮本忠長)



◀メインロビーの内観 彫刻・多田美波作

# テクニカルシート

## 防災用受信機 I P E O 型新発売

ニッタン(株) / 戸谷 武彦

新年あけましておめでとうございます。いかに時代が変わろうと、新しい年を迎えるということは我々日本人にとって、格別の感慨をもたらすものであります。

会報復刊にあたり、ニッタンを貴紙に参加させていただいたことに感謝申しあげ、ペンをとらせていただきました。

最近、わが国経済の景気は緩やかな回復の兆しにあると言われております。が、我々防災業界にありましては、依然として厳しい状態にあります。

昨今の火災報知設備の普及化に伴ない、関連の制御システムの信頼性の向上が重要な課題となっております。万一火災が発生した時には確実に警報を発し、必要な制御を行わなければなりません。もし、異常が発生した場合には、一刻も速くその異常を関係者に知らせ、正常に復旧修理する必要があります。

その必要性から、このたび全く新しい、ニッタン独自の監視方式による新受信機「I P E O 型」がいよいよ発売されます。数多くの機能を装備、システ

ムの信頼性と操作性を大幅に向上させたことによって、ユーザーの御意向に添えることと思えます。

乱文でございましたが、最後に貴協会の益々の御発展をお祈り申し上げます。

## P & P ステンレス防水工法

日本ステンレス(株) / 五十嵐義明

建築上のトラブルは、防水に関するものが多く、平らな屋根はもちろん、傾斜屋根の場合でも雨漏が問題となります。これらを解決する方法として「P & P ステンレス防水工法」があり、この特徴は――

### ◆ 抜群の耐候、耐蝕性

防水面材にはすべてステンレス鋼を使用。すでに家庭や産業界のあらゆる分野で実証されているように「耐蝕」「耐久性」はバツグンに優れています。

### ◆ 強度(耐亀裂性)が高い

ステンレス鋼は、ほかの防水面材よりも強度が高く、しかも工法として独自のエキスパンション構造を採用していますから、躯体の動きに充分対応できます。(特許工法)

### ◆ 完全密閉で漏水の余地がない

接合部は、すべて自動溶接(シーム溶接機による)

されていますから、漏水の心配は全くありません。

### ◆ 重厚で格調のある色調

露出防止には、溶接可能な「カラスステンレスN S-X 1(特許申請中)」が使用されます。深みのある色調は、屋根を落ち着いた豪華な感じにします。

### ◆ 不燃材であること

すべてステンレス鋼を用いているため、不燃性で防火性能に優れています。

設計監理協会では、第四回技術交流会を1月28日、飯田市の「福本」で開催します。内容は次のとおり。

○ニッタン株式会社  
『新型受信機の製品説明会』

○日本ステンレス株式会社  
『P & P ステンレス防水工法』

# 賛助会員活動報告

## 賛助会員部会役員

部会長 滝澤家具㈱ 笠井 邦夫

部会委員

建築関係

㈱角 藤 田中 義雄

㈱岩野商会 丸山 賢一

坂田工業㈱ 坂田 守夫

インテリア関係

㈱長野コクヨ 西原 重男

設備電気関係

前田製管製品販売㈱ 倉谷 光雄

中信電気㈱ 小野沢秀世

部会担当理事

尾島建築設計事務所 尾島 正吉

技術交流会（研究会）

年間4回、長野・上田・松本・飯田の長野県内4会場で開催する。見学会の場合は県外へも。

合同会議

技術交流会開催時に、正会員、賛助会員の合同会議を開催する。

## 第1回㈱サンゲツ モデルルーム見学会

日 時 昭和58年7月28日

会 場 名古屋市 ㈱サンゲツ本社

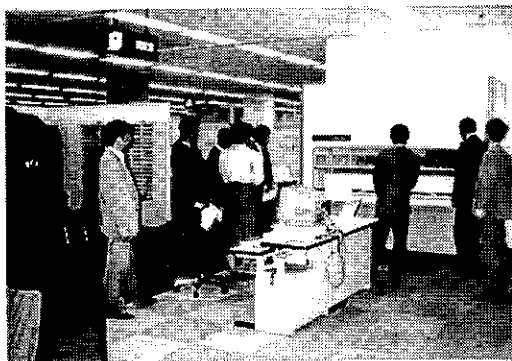
サンゲツショールーム見学の後、㈱愛知の工場を見学する。

## 第2回㈱田島ルーフィング講習会 「防水工事全般について」

日 時 昭和58年10月17日

会 場 松本市 松本第2東急イン

防水工事についての専門的な講習会が開催される。続講を改めて開講の予定。



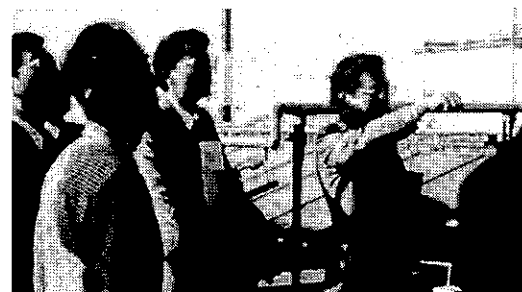
コクヨ東京ショールームを見学

## 第3回 古河電気工業㈱ ソーラーシステム施工例見学会

日 時 昭和58年11月2日

会 場 丸の内 古河電工本社

第一勧業銀行本店設備のソーラーシステムを見学。屋上全域がソーラー設備でおおわれている。



第一勧業銀行本店屋上にてソーラーシステムを見学  
(古河電気工業見学会)

## コクヨ㈱東京ショールーム見学

日 時 昭和58年11月2日

会 場 港区 コクヨ㈱東京ショールーム

新設された国電品川駅前のショールームを見学。時代の先端を伺える製品が並ぶ。

## MESSAGE

# 相互に連帯感を深めて

日本建築設計監理協会連合会会長 高橋慶夫

昭和58年は何かと事の多い年でありました。それも総会を機に事務局、組織の整備がまとまり、建築家協会との協調がまとまり、建築家協会との協調のうちにすべてが軌道にのり始めたというのが今年だと思われま  
す。しかし、ひるがえれば設監が創立して9年目に入っています。桃栗  
3年柿8年、柚子は9年で成りかかるとか、石の上にも3年などと言  
い訳を言っておられぬ時が来たと言わなければなりません。

建築の設計・監理を専ら営むものとしている事務所の集団として、各  
単体会が懸命に取り組んでおられますが、その集まりである連合会とし  
てもそれらを横につなぎながら今度はその活動の様子を全国の会員事務  
所に知って頂く事が大切であります。こうして全会員参加の実をあげな  
がらお互いが連帯感を深めて行きたいものと考えています。

しかし、取り組むべき問題は沢山あり、それも複雑にからみ合い、社  
会情勢によっても変わってきております。昭和初期に事務所をもって  
おられた先生方には理解されがたいあり様といえましょう。昨年暮の九州  
の大会において6つのテーマに分けて検討会が開かれまして、私も各テ  
ーブルを回ってみました。後のまとめにおいて簡単には結論が出な  
かったのも当然といえましょう。いずれこの経過は報告が出るでしょうが、  
こうして九州の各位が熱心に検討されたことは九州以外の会員の方々も  
共通の問題でありまして、これ等を連合会としてまとめあげて行くこと  
に力を入れて行くような方向に進んで行くものと、年頭にあって考え

ております。

## 全国の単体会会員数

日本建築設計監理協会連合会単体会の会員数は、以下の通りである。

北海道建築設計事務所協会	46名	(株)山形県設計監理協会	16名
(株)茨城県建築設計監理協会	47名	千葉県建築設計監理協会	60名
神奈川県	60名	(株)東京	413名
(株)山梨県建築設計協会	36名	長野県	11名
(株)静岡県建築事務所協会	24名	愛知	87名
大阪	158名	京都	72名
(株)滋賀県	41名	奈良県	42名
和歌山県	45名	兵庫県	55名
岡山県	52名	山口県	22名
香川県	23名	(株)高知県	264名
九州	264名		

上記の通り、長野設監は単体会中会員数においては最少である。が、  
活動内容は比して大であることを誇りたい。それにしても、少数精鋭的  
雰囲気有るとはいえ、やはり、数を見た限りでは淋しい。職能に目  
覚めた会員の増えることを望みたい。

(K)

※ずいひつ※

# わがふる里

椋 鳩 十

私は、伊那谷の喬木村阿島に生まれた。阿島というところは、三千石の殿さまの城下町で、掌に乗るほどの小さな里である。

小さな里であるが、私にとっては、素晴らしい里なのである。

街通りにしても、酒屋さんも、お菓子屋さん、雑貨屋さん、昔あった同じところで店をはっているのだ。店の前には、お相撲さんの幟に似たものに、屋号や商品名を染めぬいたりして建ててある。これも昔とまったく同じだ。そういう店の人の顔も、少年時代に見た顔とよく似ている。

こういう町を歩いていると、タイムマシンで、七十年前の世界にいきなり飛び込んでしまったような気がするのである。

あたりはうすうすと暮れていた。

人通りがぱったりと絶えて、しーんと静まり返っていた。田舎には、こうしたひと時がよくあるのだ。そういう町通りを私は歩いていた。と、突然、はっと驚いて立ち止まった。曲り角の土蔵の壁に、いきなり、細長く黒いものが現れたのだ。が、驚いたのはほんの瞬間であった。その黒いものは、私の影法師であった。影法師と出合ったとは、ほんとに何十年ぶりであった。

なんと、この里には、影法師までが昔のまま息づいているのだ。

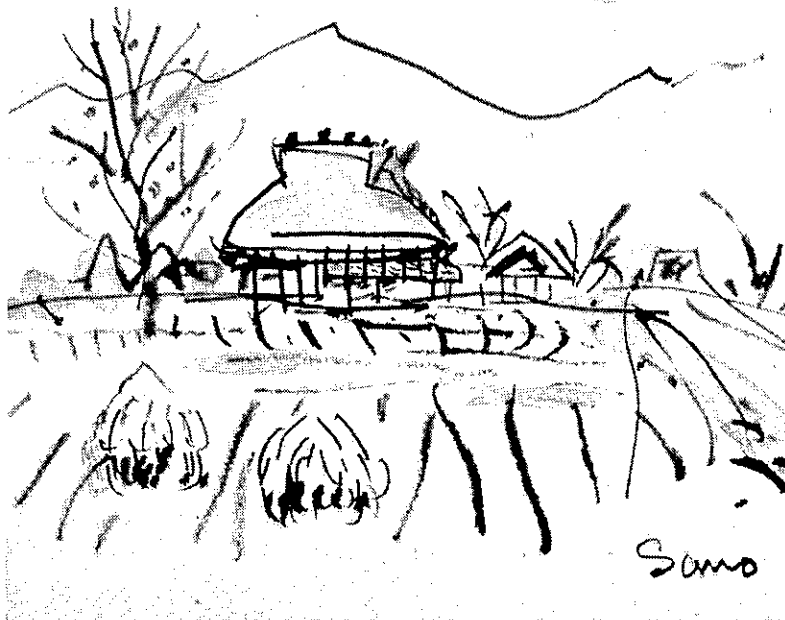
私は、この里に年に何回かやってきて、十日、二十日と過ごすのだ。それは、単に昔をなつかしむためではない。

阿島にやって来てしばらく暮していると、青春の日の若やいだ心が、

心の奥の方から、霧のように立ちのぼってくるのである。しばみかけた心が、もう一度、生き生きとよみがえってくるのである。

考えてみると、古い古い時代の息づいている里にやってきて、心が若返るというのはおかしいことだが、事実そうなるのである。

(むく・はとじゅう/作家)



佐野秀二・絵

## 【正会員名簿】

設計事務所名	所在地	電話番号	最近の主な作品
飯島一級建築士事務所	〒390-03 松本市大字岡田松岡25-12	0263-46-2268	松本筑摩高等学校特別混合教室棟 竹内整形外科医院
(株)伊藤建築設計事務所	〒390 松本市城西1-8-19	0263-32-8200	三郷村役場庁舎及び公民館 長野県松本地区養護学校
(株)エア・ハイツ設計事務所	〒385 佐久市大字猿久保780-6	02676-8-2311	佐久市立近代美術館 佐久広域・川西消防署(望月)
尾島建築事務所	〒386 上田市踏入2-11-8	0268-22-0645	北御牧村高齢者センター 望月警察署
(株)桂建築設計事務所	〒395 飯田市桜町1-41	0265-22-7234	飯田市営動物園 阿南町特別養護老人ホーム
計画工房都市建築設計事務所	〒380 長野市大字上千歳町1413	0262-34-2501	栗田書店店舗 神津邸
小松一級建築士事務所	〒390 松本市開智2-1-12	0263-35-5665	松南病院 伊那北高等学校同窓会館
(有)坂本建築事務所	〒391 茅野市宮川5425-1	0266-72-6128	南信日日新聞社 長野県婦人総合センター
桜井三郎一級建築士事務所	〒390 松本市城西1-9-15	0263-33-2576	松本児童園 藤田医院
(株)マルタ建築事務所	〒380 長野市県町459 旭町ビル	0262-32-1616	松本筑摩高等学校特別混合教室棟 長門町町民体育館
(株)宮本忠長建築設計事務所	〒380 長野市柳原1875-1	0262-41-5510	長野市立博物館 南牧村立南牧北小学校

## 会務報告

- 4月14日 第1回理事会 長野県建築士会館  
議題 ①連合会報告 ②新年度事業計画  
および予算について ③事務局職員の移  
動について
- 5月7日 第2回理事会 長野県建築士会館  
議題 ①第15回通常総会開催について
- 5月21日 第3回理事会 長野県建築士会館  
議題 ①第15回通常総会打ち合わせ
- 5月21日 第15回通常総会 ホテル長野国際会館  
議題 ①昭和57年度事業報告 ②昭和57  
年度決算報告 ③昭和58年度事業計画案  
④昭和58年度予算案 ⑤その他(1)規約改  
正について (2)賛助会員部会について
- 6月9日 第4回理事会  
議題 ①講習会開催について ②賛助会  
員部会について ③特記仕様書について  
④年間事業プログラム設定案 ⑤協会ニ  
ュース発行について ⑥芦原義信氏講演  
会について
- 6月23日 賛助会員部会合同会議  
議題 ①部長選出 ②部会委員選出  
③年間計画案 ④その他
- 7月11日 講演会・シンポジウム開催  
「ながの」の活性化を考える”  
本会、長野商工会議所、長野商店会連合  
会の共催。講師／建築家 芦原義信氏、  
パネラー／芦原義信氏、馬場瑋造氏、夏  
目幸一郎氏、北野幾造氏、司会／宮本忠

長

- 7月23日、24日、30日、31日 一級建築士試験受験  
者のための模擬試験と講習会
- 7月28日 第1回賛助会員部会技術交流会 (株)サン  
ゲツ モデルルーム見学会 (名古屋)
- 8月9日 東日本連絡協議会総会  
新潟建築設計監理協会 (新潟市)
- 8月26日、27日、28日 長野県増改築フェア 長野  
スケートセンター
- 8月27日 第5回理事会 警察共済保養所「あさひ  
荘」  
議題 ①連合会の動きと東京設監法人化  
について ②協会会員増強について ③  
長野設監の法人化について ④その他
- 10月17日 第6回理事会 伊藤建築設計事務所  
議題 ①連合会理事会報告 ②同公益広

報委員会報告 ③単位会の状況報告 ④  
関係団体との交流について

- 10月17日 第2回技術交流会 松本市第2東急イン  
(株)田島ルーフィング講習会『防水工事全  
般について』
- 11月2日 第3回技術交流会  
・古河電気工業(株)『ソーラーシステム見学  
会』 第一勧業銀行本店 (東京丸の内)  
・(株)コクヨ 東京ショールーム見学会『東  
京ショールーム見学会』 (東京品川)
- 12月17日 第7回理事会  
議題 ①連合会理事会報告 ②同公益広  
報委員会報告 ③協会ニュース発行につ  
いて ④今年度の事業中間報告 ⑤今後  
の事業計画の確認と検討 ⑥賛助会員の  
動勢について

## 編集室から

長らく眠っていた機関誌を復刊して、第五回から  
継続して発行することになりました。建築の技術者  
団体が発行するこの機関紙は、事務所と事務所、中  
央と地方、さらに設計界と一般社会とを結ぶ重要な  
掛橋として、今後とも充分に活用してまいりたいと  
考えています。復刊号は素人の浅ましきで、成す術

もなしという状態でした。幸い各方面の御協力に  
より、ここに復刊号として発行できることは無上  
の喜びです。年四回発行の機関紙を継続し、信州  
の建築と文化の向上のために、各位のご協力をお  
願いいたします。

長野県建築設計監理協会会報第5号

昭和59年1月28日発行

編集人／小松蒼一 発行人／宮本忠長

発行所 長野県建築設計監理協会

印刷 長野県建設工業新聞社



長野県建築設計監理協会

諏訪大社 上社本宮拝幣殿  
諏訪大社は信濃国一宮として、古くから崇敬を集め、七年ごとに行われる御社祭は“奇祭”として全国的に有名。昨年11月、上社本宮、下社春宮、秋宮の13棟が、国の重文指定をうけた。